

三井住友海上とJAXA、「宇宙旅行保険事業」に関する共創活動を開始

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上火災保険株式会社(社長:船曳 真一郎)と国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA、理事長:山川 宏)は、新たな発想の宇宙関連事業の創出を目指す「JAXA 宇宙イノベーションパートナーシップ(以下、J-SPARC)」※の枠組みのもと、2022年7月より「宇宙旅行保険事業」に関する共創活動を開始しました。



©三井住友海上/JAXA

◆共創活動の内容

現在、宇宙旅行を目的とした保険はまだ本格的に運用されていません。その理由は、宇宙旅行者が少なかったことに他なりません。そのような中、2021年は「宇宙旅行元年」と言われ、歴史上初めて、宇宙旅行者の数が職業宇宙飛行士の数を上回りました。

様々な手段での宇宙旅行が実現または提案されている現在、そのニーズに即した宇宙旅行保険が求められています。三井住友海上とJAXAは、『宇宙旅行保険の商品開発』及び『宇宙旅行マーケット拡大支援』に関する共創活動を行い、今、必要とされている「宇宙旅行保険」を創出・普及させることで、宇宙旅行に安心を加え、人類の経済圏の拡大に貢献します。

『宇宙旅行保険の商品開発』

「宇宙旅行」には、高度約100kmを目指す小旅行、地球を周回する数日の旅行、国際宇宙ステーション

(ISS)に滞在する滞在型の旅行など、さまざまな種類があります。それらの実現を目指す事業者とともに、それぞれのニーズ及びリスクを踏まえた最適な宇宙旅行保険の開発に関する共創活動を行います。

『宇宙旅行マーケット拡大支援』

宇宙港や有人宇宙機の開発企業、旅行代理店を始めとする宇宙旅行関連事業に参画する企業との連携により、全ての人が気軽に安心して宇宙に行ける時代に必要なマーケットの拡大を支援し、貢献してまいります。

三井住友海上は、2015 年から宇宙保険担当駐在員を海外拠点に常駐、スパークス・グループ株式会社が設立した「宇宙フロンティアファンド」への出資や、月面着陸船のリスクを補償する月保険の開発など、宇宙分野への参画を積極的に行っています。その知見と経験を活かし、本共創活動では、JAXA から提供を受けた情報や、関連企業からのニーズを踏まえ、宇宙旅行に係るリスクを定量的、定性的に把握し、最適な保険を設計します。

JAXA は、毛利衛宇宙飛行士のスペースシャトル初搭乗から 30 年を迎え、その間積み重ねてきた有人宇宙活動での実績を基に、訓練中から打上げ時、ISS での滞在、帰還のサイクルで生じ得る事象や想定すべき事項に関する情報を提供します。また、本共創活動を通じ、保険業界で培われたリスクの把握や定量的評価方法に関する知見を獲得し、有人宇宙滞在中に活かしてまいります。

本共創活動を通じて、三井住友海上と JAXA は、宇宙旅行時代に適した保険を創出することで「SPACE FOR ALL ~誰もが安心して宇宙に行ける時代」を目指します。

※ JAXA 宇宙イノベーションパートナーシップ(J-SPARC)

J-SPARC は、宇宙ビジネスを目指す民間事業者等と JAXA との対話から始まり、事業化に向けた双方のコミットメントを得て、共同で事業コンセプト検討や出口志向の技術開発・実証等を行い、新しい事業を創出するプログラムです。2018 年 5 月から始動し、これまでに 30 を超えるプロジェクト・活動を進めています。

<https://aerospacebiz.jaxa.jp/solution/j-sparc/>

以上